

2022  
4/16  
(土)

芸術文化振興基金助成作品



16ミリ試写室

横須賀上映

第31回  
有料上映会

東京大空襲

戦災資料センターチャリティ上映会

工藤 夕貴  
佐野 圭亮 (新人)  
井川比佐志  
奈良岡朋子  
樹木希林  
藤田弓子  
河原崎長一郎  
左右田一平  
左中村たつ帆  
中姜野 清宣  
矢原 田 清人  
三遊亭圓歌  
松村 達雄  
島田 豊 (子役)  
飯泉征貴 (子役)  
栗原 小巻

製作 大澤 豊  
岡村光雄  
撮影監督 岡崎宏三  
音楽 佐藤 勝  
美術 春木 章  
照明 下村一雄  
録音 本田 孜  
特殊撮影 梁井 潤  
編集 沼崎梅子  
記録 八巻慶子  
助監督 池田博徳  
製作補 桑山和之

企画プロデューサー  
阿部野人 古賀伸雄

製作 こぶしプロダクション  
プロデューサー  
映画「戦争と青春」制作委員会

製作協力  
「戦争と青春」市民プロデューサーの会  
「戦争と青春」をつくる下町の会  
ねっとわ〜く戦争と青春  
「戦争と青春」を支援する会

特別協賛 常盤薬品工業株式会社  
調音社  
スペースエイジ  
IMAGICA

カット 監修・作曲・作曲・作曲  
原・工藤夕貴(クォーターレコード)

提供 映画「戦争と青春」制作委員会

# 戦争と青春

今井正監督作品

原作・脚本 早乙女勝元

映画人と市民による初めての提携作品。  
平和への熱き思いをこめた全国1500名の市民プロデューサーの協力でつくられました。

その日  
生命も愛も炎の中に...  
構想20年、名匠・今井正が再現する  
3月10日東京大空襲

■文部省選定「優秀映画鑑賞会推薦」  
■「モントリオール国際映画祭(全宗教団体連盟賞)」受賞  
■国内映画賞にて最優秀主演女優賞、女優賞、助演男優賞、新人賞、撮影賞、美術賞、特別賞など多数を受賞!

## 映画「戦争と青春」上映と早乙女勝元氏のお話



© 日活株式会社

2022年 4月16日(土) 13:30 ~ (開場 13:00)

チケット販売:

横須賀市文化会館 ☎046-823-2951

品川文化堂(大滝町) ☎046-823-1848

井出新聞店(衣笠栄町) ☎046-851-0235

アナザワフォト(追浜駅前) ☎046-865-9963

横須賀市 文化会館 大ホール

京急横須賀中央駅下車 徒歩 10分  
横須賀市深田台 50 ☎046-823-2950

チケット料金 1,200円 (前売 1,000円) 全席自由席

※なお、内容は変更する場合があります。予めご了承ください。

主催: 16ミリ試写室 <http://y16miri.com>

共催: 横須賀市教育委員会

後援: 横須賀市(公財)横須賀市生涯学習財団  
(福)横須賀市社会福祉協議会

問合せ: ☎090-2901-0862 (松澤)

新型コロナウイルス  
感染防止

ご協力をお願い

体調の優れない方は参加を控えて下さい  
半券に氏名と連絡先電話番号を書いて下さい  
マスクの着用をお願いします



© 日活株式会社

映画「戦争と青春」

## あらすじ

現代の一人の女子高生が夏休みの課題で、家族の空襲体験を聞くことで戦争の悲惨さ、生命の尊さを学んでいくという物語。舞台は東京のある下町。そこで細々ながらも平和に暮らす「花房モータース」の主人・花房勇太は、娘ゆかりの質問に口を開こうとしない。そんなある日、ゆかりの伯母にあたる勇太の姉、清原咲子が、町の焼け焦げの電柱横の道路に飛び出した子供を救おうとして、交通事故にあう。「螢子、ケイコ、あぶない!」とさげびながら…。螢子とは空襲で生き別れになった伯母の娘だった。そこでようやく口を開いた父の話から、伯母の過去の傷痕が語られる。戦争中、伯母は弟(勇太)の担任だった教師・風見和夫と恋に落ちる。その愛を育む間もなく風見に招集令状が届く。しかし風見は徴兵を忌避し、北海道に逃亡する中で、非業の死を遂げる。伯母は風見の子を身ごもり産むが、3月10日の空襲の混乱の中で子供と生き別れになってしまう。それから45年、伯母はいつも、子供と別れた「焼け焦げの電柱」の前で待ち続けていた。そんな折、朝鮮(韓国)から、李順益(イ・スニク)が一目自分を生んだ母親に会いたいと成田空港に降り立つ。自分は赤ん坊のとき、空襲の中で母の手からはぐれ、朝鮮の人に救われ育てられたという。ゆかりは李順益の姿に、伯母の姿をダブらせるが…。



原作・脚本 早乙女勝元 (さおとめかつもと)

1932年、東京生まれ。12歳で東京大空襲を体験。働きながら文学を志し、18歳で書いた『下町の故郷』が直木賞候補に推される。1956年、『ハモニカ工場』発表後は作家に専念し、『美しい橋』『秘密』をはじめ、数々の小説が東宝、松竹、東映で映画化される。1970年、「東京空襲を記録する会」を結成し、都民の空襲体験記を編纂した『東京大空襲・戦災誌』が菊池寛賞を受賞。ルポルタージュ『東京大空襲』がベストセラーになる。2002年、江東区北砂に「東京大空襲・戦災資料センター」を開設、2019年まで館長をつとめる。主な作品に『早乙女勝元自選集』(全12巻)『蛍の唄』『アンネ・フランク』、絵本『ベトナムのダーちゃん』『猫は生きている』。小説、記録文学、絵本、映画、アニメの分野で戦争を伝えつづけ、2021年、幼児向けに書き下ろした紙芝居『三月十日のやくそく』で高橋五山賞を受賞。

監督 今井正 (いまただし) 1912-1991



映画監督。明治45年1月8日、東京生まれ。1939年、『沼津兵学校』で監督デビュー。第二次世界大戦中は戦意高揚映画も撮るが、戦後は民主主義啓蒙路線に転向し、『民衆の敵』(1946)、石坂洋次郎原作の青春映画『青い山脈』(1949)が大ヒットした。続く『また逢う日まで』(1950)で高い評価を得る。1951年の『どっこい生きてる』、沖縄戦の悲劇を描く『ひめゆりの塔』(1953)、『にぎりえ』(1953)、『ここに泉あり』(1955)、『真昼の暗黒』(1956)、『米』(1957)、『キクとイサム』(1959)などを発表、多くの賞を獲得した。平成3年11月22日、死去。享年79歳。『戦争と青春』(1991)は遺作となった。

今井正氏の写真は、ウィキペディア掲載 朝日出版社『アサヒカメラ』4月号(1953)より、プロフィールは、『日本大百科全書』坂尻昌平氏の文章を引用させていただきました。



『16ミリ試写室』は1977年に発足。「どこでも素敵な映画館」を合言葉に、県や市の視聴覚ライブラリー所有の16ミリフィルムや映写機を活用し、視聴覚教育活動続ける女性のNPO団体です。横須賀市内の図書館やコミセンなどの社会教育施設、老人ホーム、障がい者施設、地域の集会室などで年間約100回の映画会を開催しています。さらに、「心に響くメッセージを廉価で届ける」を目的に、ドキュメンタリー映画を中心に有料上映会も開催しています。

2013年春 地域交流支援活動奉仕団体として緑綬褒章を受章。